



## 中川運河のポテンシャル発信 ～運河魅力の共有のために～



名古屋市の貴重な水辺空間である堀川や中川運河に市民の憩いや潤いの場としてだけでなく、賑わいの場としての役割が求められている。ただし、運河は港湾施設であり港湾法により用途規制がされている。

中川運河は、物流形態の変化により水運利用が低下し、水面利用が少ない状況で、名古屋市の貴重な水辺空間にもかかわらず市民には遠い存在となっている。本調査では、中川運河全体のまち歩きを通して運河の魅力資源を見つけ、アーティストの視点から運河の視覚的なポテンシャルや運河再生の機運醸成として取り組んだアートイベントを通したポテンシャルを紹介するものである。

まち歩きの結果として、中川運河には広大で美しい水辺風景、松重閘門や昭和の面影を残す倉庫群などの歴史的資産、水面を利用したボートの拠点施設などの魅力資源があり、中川運河には多くのポテンシャルがあることがわかった。



## 中川運河のポテンシャル発信～運河魅力の共有のために～

名古屋都市センター 調査課 音堅 清人

### 1. 背景と目的

名古屋市の貴重な水辺空間である堀川や中川運河に、市民の憩いや潤いの場としてだけではなく、賑わいの場としての役割が求められている。ただし、運河は港湾施設であり、港湾法により用途が規制されている。

現在中川運河は、物流形態の変化により水運利用が低下し、水面利用が少ない状況で、名古屋市の貴重な水辺空間にもかかわらず、市民には遠い存在となっている。

そこで名古屋都市センターでは、市民団体（NPO 法人伊勢湾フォーラム、名古屋ライオンズクラブ）、水辺に関心のある市民、学識者、行政（名古屋市、名古屋港管理組合）で構成する中川運河プラットフォームを平成21年度に立ち上げ再生に向けた活動を行った。

中川運河再生の第一歩として、市民が水辺を体験できるイベントとして「第1回中川運河水上フェスティバル」や、市民向けシンポジウムとして「中川運河・素敵未来フォーラム」を企画し、開催した。

活動を通じて中川運河には多くのポテンシャルがあるにもかかわらず、市民には運河の存在が全く知られていないことがわかった。

本調査は、名古屋大学大学院情報科学研究科茂登山研究室と共同して実施するもので、中川運河全体のまち歩きを通して運河の魅力資源を見つけ、アーティストの視点から運河の視覚的なポテンシャルや運河再生の機運醸成として取り組んだアートイベントを通してポテンシャルを紹介するとともに、取り組みを通して感知された運河のポテンシャルの活用について提案するものである。

### 2. 中川運河の特長

#### 2-1. 水運上の特性

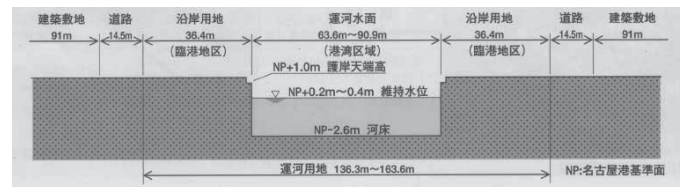
##### (1) 広大な水面

中川運河は、名古屋港と旧国鉄笹島貨物駅とを結ぶ運河であり、全長約8.2km、幅員は、幹線部63.6m～90.9m、支線部36.3mという広い幅員で、水深約3.0mの閘門式運河である。

##### (2) 水位一定

名古屋港の入り口に中川口閘門、堀川との間に松重閘門を設け水位調整をしているため、運河内の水位は一定となっている。なお、松重閘門は昭和51年に使用廃止している。

中川運河は、水位一定のため護岸と水面が近く、幅が広く広大な水面を有しており、スケールの大きさが特長である。



中川運河標準断面図



中川運河平面図

## 2-2. 水景

広大な水辺の風景が中川運河の最大の魅力であり、水景がきれいな中川運河八景を紹介する。

### (1) 長良橋界限

背後に名駅の高層ビルが見え、都心を感じることができ、運河幅が90mと広大な水面は中川運河でも一番の広がりを感じる場所である。

また、長良橋は、佐屋街道の経路であり歴史を今に残している。



長良橋から上流の眺め

### (2) 小栗橋界限

小栗橋の南側には、昭和初期より使用されている倉庫が立ち並んでいる。雄大な水面を背後に、三角の切妻屋根が均等に立ち並び、統制の取れた景観となっている。映画「泥の河」のロケ地にもなったこの場所は、古きよき昭和の面影を残す貴重な場所といえよう。

また、小栗橋は、鎌倉街道の経路であり歴史を今に残している。



小栗橋から下流の眺め

### (3) 猿子橋界限

水面と運河橋、名古屋高速道路高架橋、背後の名駅高層ビル群に囲まれ、市街地の中の運河を印象づけている。

都心に続くこの場所は、運河沿いを歩くのが気持ちよさそうである。



猿子橋から上流の眺め

### (4) 堀止船だまり

旧国鉄笹島貨物駅への物揚場として盛況であった船だまりも現在は水域利用がされておらず、ひっそりとした雰囲気漂わせているが、都心でこれだけまとまりのある水辺空間は、貴重である。

隣接する「ささしまライブ24地区」では、賑わい空間としての再開発が進んでおり、愛知大学名古屋校舎やグローバルゲートの立地が予定され、堀止では、それらの施設と連携した親水空間として緑地整備が進められている。都心の玄関口として新たに生まれ変わる場所として期待されている。



堀止船だまり東側からの眺め

#### (5) 小碓運河

水運利用がなくなり、運河の西側が平成9年に埋め立てが完了し、平成10年に地域の憩いの場として小碓緑道が完成した。中川運河でも数少ない傾斜護岸にて整備がされている。

今後は傾斜護岸の利点を生かして、生物に触れることができるような市民の環境学習の場所になることが期待されている。



小碓橋から西方向の眺め

#### (6) 港北運河

港北運河は、東側が昭和61年に埋め立てられて港北公園となり、水域利用はされていない。運河の中には名古屋港線の鉄橋もあり、ノスタルジックな風景が醸し出されている。

周辺は、1937(昭和12)年に名古屋汎太平洋平和博覧会が開催された場所があり、現在東邦ガスの大規模工場跡地となっている。貴重な水辺空間をいかし、21世紀の地域イメージを牽引する開発を期待している。



金川橋から東方向の眺め

#### (7) 中川口緑地

中川口緑地は平成20年に完成した親水緑地である。両岸に水際遊歩道が整備され、水面が近く感じられる緑地は、名古屋市内においても貴重な場所である。

平日は、地域住民の散歩コースとして利用されており、休日は名古屋港漕艇センターを拠点とし、ボートやドラゴンボートの練習が水面にて行われている。市民の憩いの場、賑わいの場として利用されている。



中川運河橋から上流の眺め

#### (8) 中川口船だまり

中川口は、中川運河と名古屋港の結接点である。かつて、船だまりは、はしけに暮らす人々で水面にて生活する町として“水面町”とよばれた場所である。かつての面影は全くないが、現在も船が係留しており、中川運河で一番港らしさを感じる場所である。西側には遊歩道が整備されており、地域住民の憩いの場となっている。



中川橋から上流の眺め

## 2-3. 歴史的資産

名古屋の近代化と産業の発展を支えてきた中川運河の歴史的資産を紹介する。

### (1) 松重閘門

松重閘門は昭和5年に建設され、堀川と中川運河を結ぶ内陸水運の要として利用されてきたが、通行船舶の減少により昭和43年に閉鎖、昭和51年に使用廃止された。

高さ20mの4つの塔はヨーロッパ城郭風のデザインで、名古屋市指定文化財として名古屋を代表する近代化遺産として保存されている。

松重閘門周辺は公園として整備され、市民憩いの場所となっている。とともに夜間はライトアップされ、地域のランドマークとなっている。

また、堀川で、観光舟運としての動きがある中で、この松重閘門は観光資源としての活用を大いに期待されている。



完成当時の松重閘門（提供：名古屋港管理組合）



現在の松重閘門

### (2) 中川口閘門

物流最盛期には、1日200隻を超える船が入り出し、閘門の前には待合の船であふれていたが、現在では1日1~2隻の船しか出入りしていない。水位調整を行う閘門は、名古屋市内では唯一ここしかない施設である。かつて、名古屋の産業を支えてきた施設として多くの市民に知ってもらうとともに、ここで往時の中川運河の記憶を呼び起こしてもらいたい。



完成当時の中川口閘門（提供：名古屋港管理組合）



現在の中川口閘門



閘室にて水位調整して入出港する

### （３）倉庫群、クレーン、物揚場

昭和の面影を残す切妻の三角屋根の倉庫群は、名古屋の近代化を支えた施設として保存すべきであろう。沿岸の新しい倉庫が、運河に背を向けて建設されているのに対して、運河側から物揚げしてきた古い倉庫は、運河を向いており、水面利用と一体となった施設として今後の活用が期待される。

数は少ないが、現在でも運河内にはクレーン付倉庫が残っている。往時の荷役形態を物語る産業遺産として、保存すべきであろう。



昭和の面影を残す倉庫群（小栗橋南側）



クレーン付倉庫（東海橋南側）

### ２－４．水面利用

運河は、港湾施設である。港らしさを感じる魅力資源を紹介する。

#### （１）船

港内貨物船より荷物を積み込み鉱石や石炭などの材料を運河沿いの工場や倉庫に運ぶ木造船の「はしけ」が多く通航した。

現在、１日１～２隻の重油を運ぶ小型タンカー船の通航しかないが、船を中川運河で見ることができるのは貴重な体験になる。

船を見ると名古屋に港があることを強く意識できる。船の動きを見ているだけでも実に楽しい。



閘門を通過するはしけ（提供：名古屋港管理組合）



燃料を運ぶ小型タンカー船（中川口）

## (2) ボート

中川口では、平成4年に名古屋港漕艇センターが完成し、ボートの練習やボート教室が行なわれ、名古屋レガッタの会場となるなど水上スポーツの拠点となっている。

残念ながらボートの練習場としては、庄内川や愛知池など郊外の方がよく利用されている。しかし、中川運河は、地下鉄の駅から比較的近く、まちなかでボート練習等ができる。これは将来的に大きなメリットといえよう。



名古屋レガッタ（いろは橋）



名古屋港漕艇センター（中川口）

## 2-5. 自然環境

運河は人工構造物である。数は少ないが、自然の魅力資源を紹介する。

### (1) 緑・花

中川運河の沿岸には多くの倉庫が立ち並び、市民は水辺になかなか近寄ることがむずかしく、また、緑や花が少なく殺風景である。

しかし、水辺空間は自然環境そのもので都市の中のスケールの大きい環境軸として緑を形成し、緑や花の名所になるくらいのポテンシャルを秘めている。



椿（小栗橋付近）

### (2) 魚・鳥

中川運河には、比較的汚れた水域でも生息できるボラやコノシロが生息している。冬には、ゆりかもめが群れをなして飛来し、大きな水面に浮かぶ風景は心むむものである。



ゆりかもめの群れ（中川口緑地）



ボラを狙うゆりかもめ（本宮橋付近）

### 3. アーティストの目から見た運河の魅力

写真を主なメディアとするアーティストの村上誠氏、櫃田珠美氏、先間康博氏、尾野訓大氏のご協力により、アーティストの視点から運河の視覚的なポテンシャルを撮影していただいた。

運河にはともすれば、見過ごしてしまいそうな情景や空間にも魅力が潜んでいることに気付かされる。

#### 3-1. 水景



都心の足元にある昔と変わらない風景（小栗橋付近）



様々な角度で空を刻むクレーンのアーム  
（露橋水処理センター改築工事現場付近）



建物が密集した空間と静穏な水面とのコントラスト  
（運河橋付近）



煌々と運河を照らす反射光で輝く高層団地  
（長良橋付近）



水面に浮遊するゴルフ場（金川橋付近）

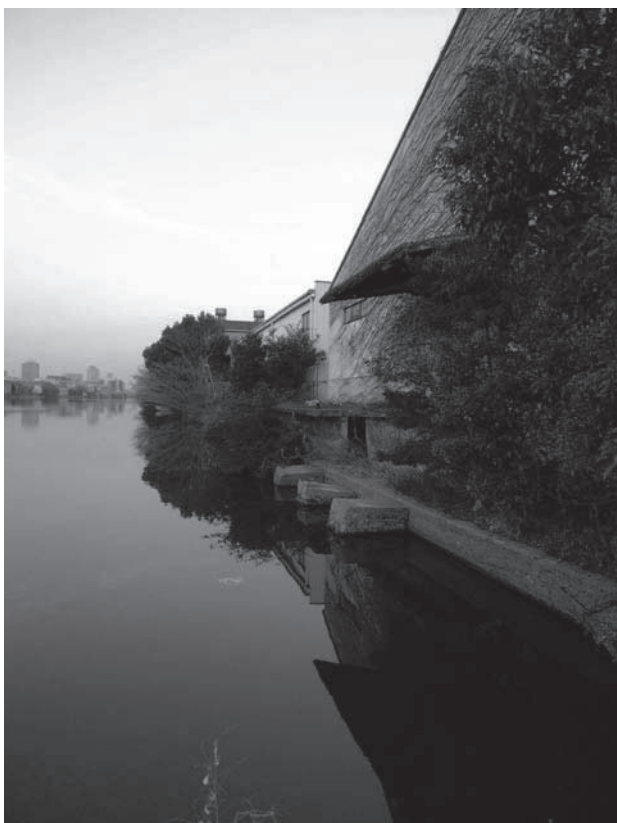
### 3-2. 自然



無機質な空間で生命力をたぎらせるカイズカイブキ  
(南北橋付近)



季節感あふれる風景 (中川本町付近)



水と緑が和む空間 (八熊橋付近)



風に舞い一心不乱に揺れ動く樹木 (小栗橋付近)



風で草がいろんな方向になびいている様は、  
まるで風の織りなす自然のアート (蜷橋付近)

### 3-3. 建物



対照的な手前の薄暗がりの空間と背後の明るい空間  
(小栗橋付近)



新たな演出を誘う無機質な空間 (八熊橋付近)



倉庫の大きな壁面は、大きなスクリーン  
対岸の建物の影が壁面に投影されている。(蜷橋付近)

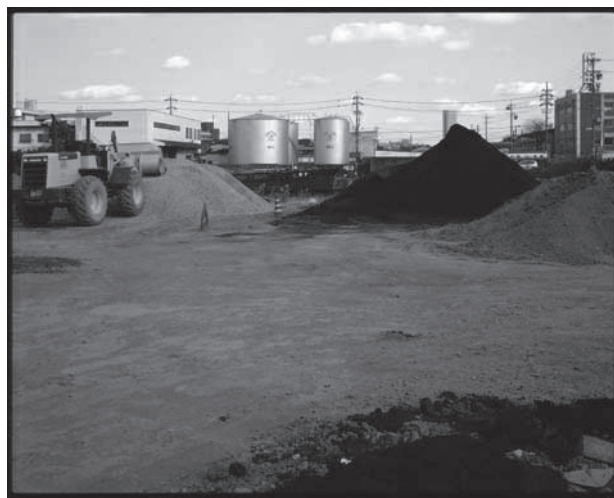


異彩を放つ格子状のフレームをした倉庫(昭和橋付近)

### 3-4. その他



昔ながらの産業が息づいている。(東海橋付近)



地域の産業を語る採石場（八熊橋付近）



運河倉庫の今を語るような塗装の色落ちた壁面  
(昭和橋付近)



独特な雰囲気の水面に降り立つ古びた橋脚  
(西日置橋付近)

#### 4. ポテンシャルを生かした取り組み

中川運河プラットフォームでは、あいちトリエンナーレ2010と連携した運河アートイベントを企画し、中川運河の魅力を発掘し発信する取り組みが行なわれたので紹介する。

##### 4-1. 中川運河キャナルアート

プラットフォームに参加している市民を中心に実行委員会を立ち上げ、岡谷鋼機の協力により小栗橋南側の第三倉庫を会場とし、中川運河開通80周年記念事業と連携したアートイベントが開催された。

##### (1) イベント概要

名 称：中川運河キャナルアート

開催日：平成22年10月31日（日）13:30～21:00

（30日（土）は、台風14号接近の為延期）

会 場：岡谷鋼機第三倉庫（中川区舟戸町）

内 容：デジタル掛け軸（長谷川 章氏）、現代能×現代音楽（青木 涼子氏）、建築系ラジオ全体討議、ダンボール茶室大茶会

主 催：中川運河キャナルアート実行委員会

後 援：愛知県、名古屋市、名古屋港管理組合、名古屋商工会議所、（社）日本プロジェクト産業協議会

協 力：岡谷鋼機株式会社

助 成：名古屋都市センターまちづくり活動助成

来場者：250名

##### (2) 倉庫空間の魅力

中川運河の倉庫でアートイベントを開催するのは初めての試みである。倉庫内は、天井が高く、壁のない広い空間となっており、白い天幕を張ることにより会場内は幻想的な雰囲気であり、市民も演出された倉庫空間の魅力を感じていたようだ。

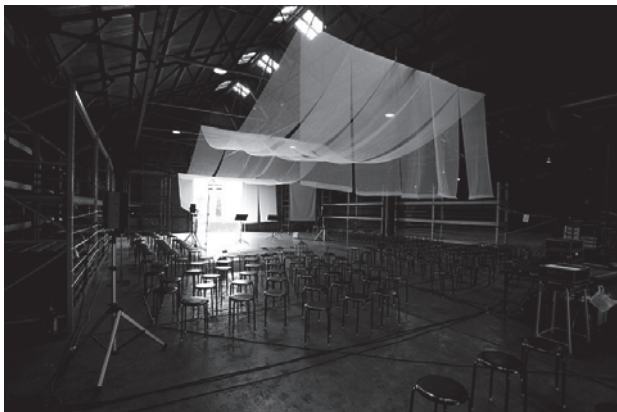
開演前、運河側の鉄扉も開けられ、イベントに参加した市民は、目の前に広がる美しい水辺空間や対岸に咲いたコスモスの眺めを楽しんだ。



岡谷鋼機第三倉庫（中川区舟戸町）



幻想的な倉庫空間



中川運河の美しい水辺を眺める来場者

### （３）現代能×現代音楽

伝統に培われた能楽を現代の感性で発信する青木涼子氏の能謡とフルートで奏でる現代音楽によるライブパフォーマンスが岡谷鋼機第三倉庫にて行われた。

雨の中にもかかわらず、多くの市民が来場され、倉庫という異空間のなかで現代能を堪能したようだ。



現代能（青木涼子氏） 写真：横関浩



### （４）水辺空間の魅力

実行委員会が中心となって、イベント開催時期に開花するように港湾管理者の許可を得て会場前両岸にコスモスの種をまいた。記録的な猛暑により大半のコスモスは枯れてしまったが、開花した色とりどりのコスモスは、美しい水辺空間を演出し、イベントに参加した市民を魅了した。



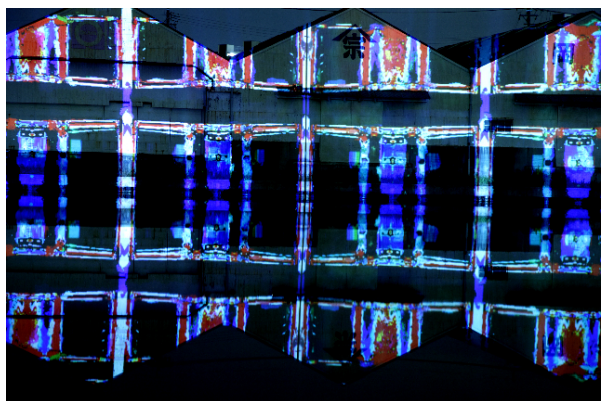
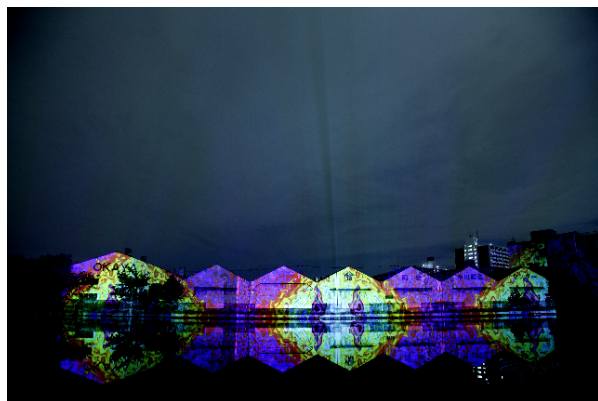
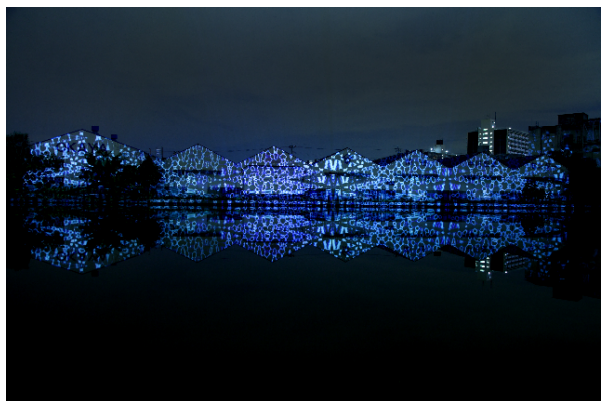
コスモスプロジェクト（小栗橋南側）

### (5) デジタル掛け軸

数々の世界遺産を舞台に活動続けるアーティスト長谷川章氏が、中川運河を舞台にし、運河越しに倉庫に映像を投影する映像アート「デジタル掛け軸」が小栗橋南側にて行われた。

古い倉庫の壁面に非日常の幻想的な映像が映し出され、水面にも鏡のように対称的な映像が映り美しい水辺空間が出現した。

雨が降りしきる中で、このデジタル掛け軸を見に来た市民は水辺に佇み、映像を通じて中川運河でしか体験することができない水辺空間の魅力をしばし感じていたようだ。



デジタル掛け軸（長谷川章氏） 写真：秦義之

## 4-2. あいちトリエンナーレ2010

プラットフォームに参加している市民がキュレーターとなり、若手アーティスト3名を起用し、中川運河をテーマに制作した映像や写真作品の内容で、あいちトリエンナーレ2010 現代美術企画コンペに応募し、入選した。

### (1) イベント概要

名 称：あいちトリエンナーレ2010

現代美術企画コンペ入選企画展

開催日：平成22年10月6日（水）～31日（日）

会 場：愛知芸術文化センター アートスペースX

テーマ：中川運河－忘れ去られた都市の風景－

キュレーター：田中由紀子

アーティスト

平川祐樹：中川運河の映像インスタレーション作品

水野勝規：水面と河岸から取材した映像作品

吉田知古：現地の空を中心に撮影した写真作品

主 催：あいちトリエンナーレ実行委員会



平川 祐樹 (Double Dream)



吉田 知古 (Breeze Way)

### (2) 中川運河の魅力について

若手3名のアーティストは、この企画のために初めて中川運河を取材し作品にした。

作品内容をみると、静穏な水面、広大な水面、高い空、古い倉庫や倉庫から見える景色などをテーマにしていた。若いアーティストから見て、これらは中川運河の魅力であり、中川運河のポテンシャルといえるであろう。

また、開催期間中多くの市民が来場され、映像インスタレーション、映像、写真作品を通じて新たな中川運河の魅力を感じたであろう。

中川運河の映像作品や写真作品が企画展示されたのは初めてのことである。企画展を契機に中川運河の魅力にふれ、運河に関心をもつ人がふえるとともに、多くのアーティストが中川運河に魅力を感じ、中川運河をテーマにした作品により、広く市民へ発信されることを期待するものである。

## 5. ポテンシャル活用のあり方

### 5-1. ポテンシャルの種類

中川運河周辺のまち歩きなどの取り組みを通して感知された運河のポテンシャルは、以下のように整理できる。

- ・水辺風景（長良橋界限、小栗橋界限、猿子橋界限、堀止船だまり、小碓運河、港北運河、中川口緑地、中川口船だまり）
- ・沿岸建物景観（切妻の倉庫群）
- ・歴史的資産（松重閘門、中川口閘門、倉庫群、クレーン、物揚場）
- ・水面利用（船、ボート）
- ・自然環境（緑、花、鳥、水辺）
- ・アートを触発する空間（古い倉庫、水辺空間）

こうした中川運河のポテンシャルをさらに活用し、中川運河の魅力を高めていくことが運河再生にとって重要となる。

### 5-2. ポテンシャル活用の方向性

最後に、運河のポテンシャル活用について提案する。

#### （1）視点場の整備

橋からの眺めを満喫できるような視点場の整備が求められる。橋の改修が未整備のところは、整備する際歩道幅員をできる限り広くして両側に設置し、ゆったりとした気分でそこから運河の眺めを楽しんでみたい。既に橋の改修が完了しているところは、まち歩きコースのルートに入れるなどして、市民がそこを訪れ視点場として活用をする機会を増大する工夫が大切である。また、橋詰にはそこで佇み水辺を眺めることのできるオープンスペースを確保することも重要である。

なお、遊歩道整備については、財政的な問題もあることから、重点的な整備地区を指定し、まとまった範囲でネットワークを早期に完成させ、逐次、市民開放を進める。

#### （2）歴史的資産の保存・活用

##### ①古い倉庫の保存・活用

現在名古屋市では、地域の歴史的資源を活かした「名古屋市歴史まちづくり戦略」の策定を進めている。昭

和の面影を残す倉庫群については、「名古屋の近代化・産業発展を支えてきた産業遺産」として保存すべきである。

横浜市、大阪市そして神戸市などの大都市の臨海部では、倉庫や工場跡地など低・未利用地を活用した文化創造の動きが始まっている。倉庫としての利用が低下してきた古い建物については、名古屋市においてもアーティストやクリエイターの創造の場として、また、水辺が見えるカフェとして市民の憩いの場として実験的にでも活用してみる。



クリエイティブセンター大阪（名村造船所跡地）

##### ②中川口閘門の活用

産業遺産でもある閘門は、絶好の社会学習の場といえる。小中学生に対しても積極的に閘門通過体験を実施する。

また、松重閘門はこの地区の魅力的な観光資源となるだろう。元来の機能を復活し建物保全をするなど、一層、産業遺産としての価値を高め活用していくことが、大きな検討課題と考えている。



中川口閘門通過体験（中川運河水上フェスティバル）

### （３）水面利用の促進

#### ①水上イベントの開催

直線的で静穏な水面をいかし、レガッタレースを開催し、多くの市民が中川運河に集まり賑わい空間となるようにしたい。また、名古屋港漕艇センターを活用し、ボートやカヌー教室など、市民が気軽に水辺を体験できるような水上レクリエーションイベントを多く開催する。



カヌー教室（中川運河水上フェスティバル）

#### ②観光舟運の就航

市民や観光客が船に乗り、運河からの景色を楽しんでもらいたい。そのためには、観光舟運として都心で整備が進む「ささしまライブ 24 地区」と名古屋港水族館があるガーデンふ頭やリニア・鉄道館がある金城ふ頭を結び、名古屋の新たな観光ルートの創設を期待したい。



水上バス（大阪・アクアライナー）

### （４）都市環境軸の形成

運河は、「風の道」、「水と緑の回廊」としての都市環境軸の形成が期待されている。運河の沿岸を整備する

際は、市民の憩いの場所となり、また花の名所となるよう緑や花の植樹に工夫を凝らしてもらいたい。

なお、大勢が中川運河に愛着をもち、運河は私達のまちの財産と認識していただくためにも、行政だけが運河整備に関するのではなく、沿岸立地企業、地域住民、市民団体と協働して、水面活用イベント実施、緑化や植樹などを担っていくことが重要である。



桜並木（荒子川公園）

### 6. おわりに

名古屋の産業発展を支えた中川運河は、2010 年 10 月 25 日に本線開通 80 周年を迎え、記念事業として、市民向けに運河の魅力を発信するイベントが開催された。こうした活動を通して、あらためて中川運河には多くのポテンシャルがあることが再認識された。

中川運河は、物流としての水運利用が低下するなかで、今後は交流軸、環境軸、創造軸、防災軸として新たな役割が求められている。完成当事「東洋一の大運河」とよばれた中川運河のスケールの大きさは、名古屋のまちを変えるかもしれないほどのポテンシャルがあるように思える。そのポテンシャルをいかし、新たな中川運河としての再生を期待するものである。

最後に、中川運河の視覚的なポテンシャルについてアドバイスをいただいた名古屋大学大学院情報科学研究科 茂登山准教授、まち歩きにて写真撮影をいただいた名古屋大学茂登山研究室 稲垣拓也さん、そして、中川運河の写真を提供いただいたアーティストの村上誠氏、櫃田珠美氏、先間康博氏、尾野訓大氏にはこの場をお借りしましてお礼申し上げます。



名古屋都市センターが、名古屋のまちづくりや都市計画行政の課題を先取りした研究テーマを設定し、必要に応じ、名古屋市職員や学識者などとも連携して調査研究を行い、報告書としてまとめたものです。

No.092 2010.3 | 研究報告書

中川運河のポテンシャル発信～運河魅力の共有のために～

平成 23 年 3 月

発 行



名古屋都市センター

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目 1 番 1 号

TEL / FAX 052-678-2200 / 2211

<http://www.nui.or.jp/>

この印刷物は再生紙を使用しています。